

児童会・生徒会による いじめ防止の取組事例集



にかほ市立象潟小学校



横手市立植田小学校



大館市立南中学校



潟上市立天王中学校



県立五城目高等学校



県立能代支援学校

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内全ての学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

目 次

【小学校】

・ 鹿角市立末広小学校	1
・ 北秋田市立鷹巣小学校	2
・ 五城目町立五城目小学校	3
・ にかほ市立象潟小学校	4
・ 横手市立植田小学校	5
・ 湯沢市立湯沢東小学校	6

【中学校】

・ 大館市立南中学校	7
・ 能代市立能代南中学校	8
・ 潟上市立天王中学校	9
・ 由利本荘市立本荘東中学校	10
・ 湯沢市立雄勝中学校	11
・ 東成瀬村立東成瀬中学校	12

【高等学校】

・ 県立二ツ井高等学校	13
・ 県立五城目高等学校	14

【特別支援学校】

・ 県立能代支援学校	15
・ 県立栗田支援学校	16

【小学校】

（小学校低学年用）

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、絶対にいじめをしません。

二 私たちは、いじめを見すごさず、みんなで力を合わせていじめをなくします。

三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。

五 私たちは、いろいろな人たちとなかよくし、みんなを支える一人になります。

（小学校中・高学年用）

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。

二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるように行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになっ

て感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえない存在として大切にします。

五 私たちは、生活の仕方や文化、ものの考え方などにちがいがあ

学 校 名	鹿角市立末広小学校	児童生徒数	22人	学級数	4
1 活動名	目指せ「全校なかよしの学校」 ～「主体性」に焦点を当てた、各行事やなかよし集会の取組～				
2 活動の趣旨	本校では、小規模校のよさを生かし、地域合同運動会や全校宿泊体験学習などの行事、掃除や給食などの日常的な縦割り班活動を通して、積極的な異学年交流を行っている。 昨年11月に行われた「なかよし集会」では、4・5・6年生が計画・準備をし、いじめについて考えたり、学級の目標を発表したり、みんなで仲よくゲームをしたりして、「全校が仲のよい学校」を目指した。				
3 活動の概要	(1) 行事と関連させた異学年交流 ①地域合同運動会（5月） ・応援合戦の替え歌やダンスの練習では、上学年が優しく振り付けなどを教えた。 ・児童が話し合っ、綱引きやボール送りリレー、全校色別リレーなどの走順を決めた。 ②老人介護施設訪問（6月） ・お年寄りとのゲームをするか縦割り班で話し合い、ビンゴや魚釣りを企画した。 ③全校宿泊体験学習（7月） ・2泊3日であきた白神センターと大館少年自然の家に連泊し、部屋班や活動班の友達と協力し、支え合いながら寝食を共にした。 (2) なかよし集会（11月） ○高学年による「いじめ」についての発表 1. どういうものがいじめなのか 2. どうしたらいじめを防ぐことができるのか ○各学年のいじめ防止のための目標発表 （例）<u>1年生</u>・・・「いつも なかよく さそって あそびます」 <u>6年生</u>・・・「協力 あいさつ 笑顔 グッドフレンド作戦」 ○委員会による寸劇やミニゲームの実施（コピーロボットゲーム、電気ビリビリゲーム）				
4 これまでの成果と考えられること	・児童が企画したり、児童同士で話し合ったりする機会を意図的に設定したことで、主体的に活動に取り組む姿が見られた。 ・各行事や日常的な異学年交流の経験から、高学年は責任感をもって行動し、自己有用感の高まりにもつながっている。低学年は安心して学校生活を送るとともに、上学年の姿を見て規範意識が身に付いてきている。 ・いじめについて考え見つめ直すことで、すぐ近くにある「いじめの芽」に気付くことができた。その結果、お互いを思いやり、あたたかい関係を築こうとする態度が身に付いてきた。				
5 今後の課題	・主体的な活動に対する教師の支援の在り方。 ・今後小学校段階でも増えるであろうネット上のいじめへの理解。 ・平成31年度には十和田小学校との統合が控えている。統合後も児童が安心して学校に通い、新しい友達と楽しく生活できるよう、児童のもつ魅力を磨いていきたい。				



【発表「いじめは身近にあるんだよ」】

学 校 名	北秋田市立鷹巣小学校	児童生徒数	359人	学級数	15
1 活動名	縦割り班活動を生かした心のつながりづくり				
2 活動の趣旨	学級の枠を超え、全ての学年が縦のつながりの中で活動する機会を多く設定することを通して、お互いの理解が深まり、学校全体の人間関係が良好になることを期待して、縦割り班での活動を行っている。				
3 活動の概要	○毎日の清掃 上学年が掃除の仕方を教えたり、仕事を指示したりして掃除を行っている。反省会では、班長が「今日がんばっていた人」を挙げて、お互いに認め合うようにしている。前・後期で班が変わるため、毎年他学年の友達を増やすことができる。 ○鷹巣いいとこ見てふれ隊 地域のよさを再発見したり、班で協力して活動したりすることをねらいとして、昨年度から取り組んでいる。 昨年度：縦割り班で、商店街や地域の歴史について学ぶ「地域巡り」を実施した。 今年度：縦割り班（3年生以上）で、「餅っこまつり」に参加した。出店で買い物をしたり、商店街で昼食を食べたりした。 ○なべっこ会 なべっこ会の前に、縦割り班ごとに話合いの場を設け、持ち物や役割分担などについて確認する。当日は、6年生が先になって、協力してきりたんぼ鍋を作って食べる。食後は、班で考えた遊びをすることで、より一層絆を深めている。 ○ふれあいタイム 縦割り班が新しくなったときに、班員が仲良くなるよう、班長が中心になって室内でできる簡単な遊びを考えて楽しむ。 ○きらきらほっとパーティー 運営委員会が計画し、全校でクリスマスパーティーを行う。縦割り班でゲームを楽しむ。				
4 これまでの成果と考えられること	・学年に応じて指示の仕方や接し方を変えたり、面倒をみたりできる児童が増えた。発達の段階を理解して、お互いに相手を受け入れられるようになってきていることが、いじめやトラブル等の未然防止につながってきている。 ・異年齢集団における交流を行うことで、特に高学年の児童の自己有用感が高まってきており、学校生活の様々な場面で成果として表れている。 ・低学年の児童が、高学年の児童に対して親しみをもって接している様子が日常的に見られる。 ・他学年の友達が増え、縦のつながりが深まった。				
5 今後の課題	・支援を要する児童への対応やお互いの理解が得られるまでに至らない班への支援の在り方について検討していきたい。 ・受け入れるだけでなく、やってはいけないことに対して指摘できる関係性を築くように支援していきたい。				



【縦割り班で、餅っこまつりに参加】

学 校 名	五城目町立五城目小学校	児童生徒数	279人	学級数	12
1 活動名	笑顔で絆のある五小を目指して				
2 活動の趣旨	本校の今年の児童会テーマは、「五小っ子が笑顔で279（つなぐ）絆の輪」であり、子ども同士のかかわり合いを通して、自主的、実践的に活動する子どもを育てる指導の工夫を特別活動の目標としている。本校では、児童の主体的な活動の中で、好ましい人間関係を築き、豊かな心を育てることを通して、いじめを許さない・いじめをする子どもをつくらない学校づくりを目指している。				
3 活動の概要	(1) 児童集会 1年生を迎える会や学団集会、クラブ感謝の会、6年生を送る会など、各集会の特色に合わせ、各学年や児童委員会、クラブ等の担当が中心となって企画・運営し、全校児童がかかわって実施している。 (2) 全校縦割り班活動 縦割りによる24班を組織し、年間を通じて計画的、継続的に様々な交流活動を行っている。 ①顔合わせ夢集会（縦割り班出合いの会） ②花の苗植え付け集会（人権の花の苗植え） ③夏休み明けスピーチ集会（夏休みの思い出） ④なべっこ打合せ集会 ⑤なべっこもういい会（なべっこの確認） ⑥なべっこ集会（なべっこ作り） ⑦冬休み明けスピーチ集会（冬休みの思い出） ⑧雪遊び集会（スノータワーを作る活動）  【なべっこ集会の様子】				
4 これまでの成果と考えられること	本校は学校統合により平成27年度から町で唯一の小学校となり、広い学区からスクールバスやタクシーで通っている児童が多く、放課後や休日の子どものかかわりが少なくなっていることから、縦割り班活動を多く取り入れた異学年交流を行ってきた。その結果、休み時間には学年関係なく一緒に仲よく遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。また、高学年の子どもたちは、リーダーとして低学年の面倒をみてあげようとする気持ちが芽生え、縦割り班や町内児童会の活動時には1年生を教室まで迎えに行ったり、なべっこ打合せ集会では1年生が準備するものをシートに書いてあげたりする姿が見られた。低学年の子どもたちは、なべっこを作ってくれた高学年のお兄さん、お姉さんに「ありがとう」の気持ちを込めてありがとうカードを書き、お昼の校内放送で全校に紹介するなど、心の通い合いが感じられた。				
5 今後の課題	児童が挑戦することで達成感や感動が得られ、人間関係が深まるような活動を企画し、児童が主体的に進めていくことができるように支援していきたい。 いじめの未然防止のため、児童会活動によるいじめ防止の呼びかけや、人間関係の改善が図られるような自発的、自治的な活動（五小っ子宣言集会、やさしさポスター作りなど）に取り組めるよう支援していきたい。				

学 校 名	にかほ市立象潟小学校	児童生徒数	4 1 6 人	学級数	1 6
-------	------------	-------	---------	-----	-----

1 活動名

スマイル ～一人一人が責任をもって協力し、笑顔いっぱいの学校生活を送ろう～

2 活動の趣旨

象潟・上浜・上郷の3小学校が統合し、新たにスタートした新生象潟小学校。今年度の児童会目標は、統合後の不安を解消し、新たな象潟小の歴史をスタートさせようと計画委員会で設定した「スマイル ～一人一人が責任をもって協力し、笑顔いっぱいの学校生活を送ろう～」である。自主的・実践的な取組により、望ましい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりを行っていけば、学校やクラスへの所属感を高めることができ、笑顔いっぱいの学校にしていけるのではないかと考え、今年度の活動をスタートした。

3 活動の概要

(1) 縦割り活動

32の縦割りグループを組織し、運動会などの行事やはじめまして集会、縄跳び集会などの集会活動などで異学年交流をし、思いやりの心や協力し合う態度を育てていこうとしている。

①はじめまして集会（4月）

新1年生との出会いに加え、象潟・上浜・上郷の新たな仲間との出会いの会として行った。自己紹介をしたり、ボール送りゲームをしたりして楽しく交流することができた。

②縦割り遊び（毎月第1金曜日の朝）と縦割り読み聞かせ（毎月第3金曜の朝）

縦割りグループへの所属感をもたせ、思いやりの心や協力し合う態度を育てていくためには、行事や集会活動だけでなく、日常的に活動していくことが大切である。そこで縦割り遊びや縦割り読み聞かせの活動を1年を通して行っている。6年生が遊びの計画を立てたり、読み聞かせをする本を選んで練習したりして、主体的に活動している。



【縦割り読み聞かせの様子】

(2) 各委員会の取り組み

「スマイル～一人一人が責任をもって協力し、笑顔いっぱいの学校生活を送ろう～」の児童会目標達成に向けて、各委員会で取り組んだ主な内容は以下の通りである。

- ・計画委員会 …「思いやりの木」の設置とあいさつ運動
- ・福祉委員会 …アルミ缶集めとあいさつ運動（毎週金曜日の朝）
- ・飼育栽培委員会…人権の花植え活動と花の世話の呼びかけ

4 これまでの成果と絆づくりに考えられること

統合初年度ということもあり、新しい学校や友達に慣れるのに時間がかかるのではないかと心配していたが、縦割り活動を積み重ねてきたことにより、グループ内で楽しそうに遊んだり、読み聞かせを聞いたりする姿が多く見られるようになった。「思いやりの木」の運動でも、自分のクラスの児童だけでなく、他学年児童への感謝の気持ちや相手が頑張っていることなどを文章にして紹介し合うことができた。

5 今後の課題

あいさつ運動を継続しているが、個人差が大きく、なかなか明るいあいさつを返せない児童が多い。また、「他の友達もやっているから」などといった安易な理由で約束を破ってしまう児童もいる。あいさつをすることや約束を守ることなど日常生活をしっかりできるよう見直していくことが、笑顔がいっぱいの学校、いじめのない学校につながっていくことを確認し、指導していきたい。

学 校 名	横手市立植田小学校	児童生徒数	49人	学級数	8
1 活動名	太陽ワードプロジェクト ～全校に笑顔の花を咲かせよう～				
2 活動の趣旨	(1) 話しかけられた人や聞いた人の心が、温かくなったり元気になったりする「太陽ワード」を考え、実際に使っていくことを通して、相手のことを考え、思いやる心を育む。 (2) 児童主体で太陽ワードを考え、学級や児童委員会が協力して広げていく活動を通して、安心して生活できる学級・学校づくりへの参画意識を高める。				
3 活動の概要	○前期最後の児童会代表委員会で、今年度のテーマ「明るく元気な49人 笑顔あふれる植田っ子」の実現がまだ十分ではない、との意見が出た。それを受け、計画委員会から後期の中心的な活動として、太陽ワードプロジェクトが提案された。 ○プロジェクトの内容は、言われた相手の心が温かくなったり元気になったりする「太陽ワード」を集め、全校に紹介し、その言葉を積極的に使っていこうとする運動である。 (1) 活動の時期 ・第Ⅰ期 10月25日～12月25日 ・第Ⅱ期 1月21日～2月28日 (2) 児童委員会による役割分担 ・計画委員会が中心になって、全校から「太陽ワード」を募集する。その際、その言葉に関するエピソードや話しかけるときの表情についても書いてもらう。 ・計画委員会は、朝のあいさつ運動や食堂での給食の時間を利用して「今週の太陽ワード」を紹介し、様々な場面で使っていくことを呼びかける。 ・保健委員会は、保健室前の心の健康に関する掲示の中に「太陽ワード」を掲示する。 ・放送委員会は、朝や放課後の放送を通じて「太陽ワード」の活用を呼びかける。 ・図書委員会は、読書集会と関連させて、心が温かくなるような本を紹介する。				
	 【計画委員会による太陽ワード募集活動】				
	太陽ワードとエピソードの例 ★やったね！ ・スポーツクラブで得点をあげたときに、チームのみんなから言われてとっても自信になった。 ★いっしょにやろう！ ・給食の後片付けを一人でしていたら、当番でない友達がいっしょにやってくれた。うれしかった。 ★助かったー。ありがとう。 ・友達に手伝ったとき、ありがとうの前に「助かったー」と言われると、やってよかったと思う。				
4 これまでの成果と考えられること	・温かい言葉を使うことへの照れやとまどいが減り、明るく前向きな会話が増えてきた。 ・言葉だけでなく、使われる場面や表情を考えたことにより、友達関係全般を見つめ、よりよくしていくポイントを具体的に考える機会となった。 ・児童会主体で活動したことで、学級や学校の生活づくりへの参画意欲が高まった。				
5 今後の課題	・児童会活動を支援しながら、今回の活動と関連した学級活動や道徳科の授業を設定し、学校ぐるみで児童の人間関係形成・社会形成能力の育成を図っていきたい。				

学 校 名	湯沢市立湯沢東小学校	児童生徒数	4 5 9 人	学級数	2 0
-------	------------	-------	---------	-----	-----

1 活動名

「ひびき合い みんなでつくる 笑楽幸（しょうがっこう）」を目指して

2 活動の趣旨

本校の教育目標のサブテーマは、「ひびき合い みんなでつくる 笑楽幸（しょうがっこう）」である。「笑楽幸」の部分は「小学校」に掛けているわけだが、誰にとっても楽しく、所属することに幸せを感じることができる学校を目指して、児童同士が互いに響き合ってよさを伸ばしていけるような活動に取り組んでいる。このことが、いじめの未然防止につながると考えている。

3 活動の概要

① 運営委員会による「挨拶運動」の取組

まずは運営委員会が、児童集会で「元気よく、明るい笑顔で、自分から」挨拶することを全校に呼びかけた。そしてその後、運営委員会が玄関に立ったり、各教室を回ったりして挨拶の呼びかけを行ってきた。
時折、同一校舎で生活する湯沢北中学校の生徒会が行っている挨拶運動も小学生の手本となっている。

② ふれあい委員会による「キラッとさん紹介」の取組

この取組は、全校児童が学年関係なく友達のよいところを見付け、紹介し合うものである。玄関ホールの「さかせよう みんなの花」コーナーに置かれているカードに記入し、「キラッとさんポスト」に投函すると、それをふれあい委員会が昼の全校放送で紹介してくれる。その後、コーナーに、それらのカードとキラッとさんの名前が書かれた花びらを掲示している。

4 これまでの成果と考えられること

挨拶運動の取組により、朝だけでなく、明るい声の掛け合いが校内に広がっている。また、キラッとさんとして自分のことが放送で紹介されたり、コーナーに名前が掲示されたりすることで児童の表情からは自己有用感を感じている様子が伺える。
本校においても、いじめの事案は認められるが、深刻化する前にほぼ解消に向かっている。これも、日常的に児童同士に「ひびき合い」を生み出しているこれらの活動によって、一人一人に培われている明るさや素直さ、そして児童同士の関係性の強さが基盤にあってのことと捉えている。

5 今後の課題

挨拶も慣れてくると、自分は挨拶しているという自己満足に偏った行為になってくる。挨拶は本来相手と気持ちをつなぐための手段であることを児童に理解させながら、相手意識をもった挨拶ができるように高めていきたい。
「キラッとさん紹介」の取組についても、よさを紹介してもらっただけの一方通行で終わらず、認めてもらった本人からもお礼のコメントを付箋などに書いてコーナーに貼れるようにするなどの工夫をすることで、「ひびき合い」が更に広がっていくのではないかと考えている。
これからも、児童が主体的に「ひびき合い みんなでつくる 笑楽幸（しょうがっこう）」を目指していけるよう、湯沢北中学校生徒会とも連携しながら取り組んでいきたい。



【さかせよう みんなの花コーナー】



【キラッとさんを放送で紹介する】

【中学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。

五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学 校 名	大館市立南中学校	児童生徒数	69人	学級数	5
1 活動名	いじめの未然防止につながる話し合いと実践				
2 活動の趣旨	南中学生会では、「生徒総会」、「南中語り合う会」、「各種集会」での話し合いや「日常の実践」等を通して、様々な活動に生徒が主体的に取り組むよう働き掛けている。こうした「話し合い」と「実践」を基にした取組を通して、生徒同士の望ましい人間関係の構築や自己有用感の醸成を促し、いじめの未然防止につなげている。				
3 活動の概要	(1) 生徒総会の話し合いからの取組・・・「THE アクティブ」 生徒会の提案で始まった、学校生活の様々な場面でのがんばりを生徒同士で見付け合い、称え合う活動である。自分たち一人一人の力を生かし、南中生として成長していくことを目的に取り組んでいる。具体的には、様々な活動がんばっている生徒や、周りが見付けた友達のよさを昼の放送で紹介する活動、授業中の発表や表現活動の後に見付けたよさを遠慮せずに声に出す活動などがある。 (2) 南中語り合う会の取組・・・「ほっと もっと 活動」 これまで、南中のスローガンとして様々な場面で意識してきた「挨拶」「歌声」「拍手」について、更に一歩踏み込んだ取組としていくために、「安心感をもたせる」「声の大きさに留意する」「表情をつける」ことに一層力を入れていくことを決め、全校で取り組んでいる。こうした、相手を意識した取組を日常的に実践することで、人を思いやる気持ちや、いじめは絶対にしてはいけないという気持ちを育んできた。 (3) 各種集会からの取組と実践 日頃お世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを伝えるために、総合的な学習の時間でどんな活動ができるのかを話し合った。「施設訪問」「公民館清掃」「農業サポート」など全部で七つのアイデアが出て、全校生徒がそれぞれに分かれて活動を行った。これらの活動後、たくさんの感謝の言葉が学校に届けられ、それらが更に生徒の自己有用感を高めるとともに、思いやりの心・感謝の心の醸成につながった。 また、メンタルコーチから学ぶ集会の実施後には、相手のよいところを見付けて褒め、それに対して感謝の言葉を返す「いいね回し」を実践した。学年や部活動などの垣根を越えて全員と「いいね」を回すことで、全校が温かな雰囲気となり、学年を越えた輪が広がった。こうした全校で取り組む「温かい雰囲気づくり」は、いじめの未然防止や個々の自己有用感の醸成に効果的であった。				
4 これまでの成果と考えられること	学年を超えて話し合うことや自分たち自身が活動することを通して、生徒同士の挨拶や会話が增え、望ましい人間関係ができている。また、地域貢献活動等によりたくさんの感謝の声が学校に届いていることから、生徒の自己有用感が高まってきている。				
5 今後の課題	今以上に生徒が主体となった取組の充実を目指したい。そのためには、生徒自身が学校生活の中で様々なことに問題意識をもつとともに、それらを自分たちで話し合い、協力して解決しようという態度を育てなければならないと感じる。				



【全員といいね回し】

学 校 名	能代市立能代南中学校	児童生徒数	203人	学級数	9
1 活動名	いじめ撲滅集会における討論といじめ撲滅宣言の採択				
2 活動の趣旨	いじめとは何かを学び、いじめを撲滅するための方法を自ら考え、全校生徒で討論することで、日々の学校生活の中でいじめを絶対にしない、認めない、見逃さないという精神を育成する。				
3 活動の概要	平成30年度の10月上旬にいじめ撲滅集会を開催した。 いじめとは何かを学んだ後で、「いじめを撲滅するためにはどのような方法が最も効果的か」という論題の下、全校で討論を行った。事前に上記の論題について生徒からアンケートを採り、出てきた案を大きく四つの項目に分類し、二つのダイヤモンドランキングを作成して、討論の際の思考ツールとして活用した。生徒からの案は、「A：南中独自の規則を作る」「B：先生や友達に相談する」「C：呼びかけ（ポスター、声かけ運動をする）」「D：コミュニケーションの場を増やし、相互理解を推進する」などであった。 このランキングを基に討論を行った。討論の中では、「話すことが苦手な生徒に、コミュニケーションの場を増やすことは逆に苦痛になるのではないか」、「経験豊富な先生方に相談することが解決につながる」などの意見が出され、いじめ撲滅のために熱心な討論が行われた。 その後、生徒会執行部により提案された「いじめ撲滅宣言」を全校生徒で読み上げ、採択に至った。最後に、いじめ撲滅宣言に賛同できる生徒は、名札にシンボルマークのシールを貼ることを提唱し、集会を終えた。 能代市立能代南中学校 いじめ撲滅宣言 ― いじめを絶対にしません。 ― 友達を大切にし、温かい心で接します。 ― 自分の言動に責任をもち、相手を傷つけるようなことはしません。 ― 思いやりの心と勇気をもって、いじめに立ち向かいます。 ― 周囲のいじめは見逃しません。 ― ネット上でも人の誹謗・中傷はしません。 ～支え愛、励まし愛、助け愛、3つの愛を大切に～ 【 いじめ撲滅宣言 】 【 シンボルマーク 】				
4 これまでの成果と考えられること	(1) 3年生では道徳の授業で「いじめ」に関することを取り上げ、考えを深めるなど、いじめに関する認識の広がりが見られる。 (2) 教室を始め廊下などにもいじめ撲滅宣言を掲示したり、名札にシンボルマークを貼ったりすることで、生徒一人一人が普段の学校生活の中で、「いじめを絶対にしない」という意識が高まった。				
5 今後の課題	毎月の生活アンケートを基に、いじめを把握し対応しているが、教師側が把握できていないものも存在するため、日々アンテナを高くし、情報交換を密にしながら対応する必要がある。あわせて携帯端末における誹謗・中傷への速やかな対応が求められる。				

学 校 名	潟上市立天王中学校	児童生徒数	276人	学級数	13
1 活動名	住みよい天王中学校にするために ～みんなで話し合い、みんなで考えよう～				
2 活動の趣旨	本校の生徒活動部の目標は「充実した学校生活を目指して、自ら実践しようとする生徒の育成」である。生徒集団による諸活動を通して、周囲の人の存在を認めるとともに、よりよい人間関係を形成し、集団への所属感や集団内での自己有用感を高めていくことを目指したい。				
3 活動の概要	(1) 中学生熟議 7月に「よりよい天王中学校にするために」という議題を生徒会執行部が提案し、中学生熟議を行った。昨年度創立70周年を迎えた天王中学校を、この後どのような学校にしていきたいのか全校生徒が考える活動である。「一人一人が自分の考えをもち、仲間の考えを認めながら議論しよう」を話し合いのめあてとし、各学年学級の生活班ごとに「目指す天王中学校像」と「それを実現するために何ができるか」について話し合った。話し合いの中では、各学年において「相手の苦手なところも受け入れ、思いやりのある天王中学校にしたい」「笑顔の多い天王中学校にしたい」「みんなが幸せになる天王中学校にしたい」などの意見が出され、そのために「感謝の気持ちを伝える」「相手の気持ちを考える」「平等に接する」「いじめはしない、させない」という思いを強くした。ワークショップで付箋紙を貼った拡大ワークシートを掲示することで、全校生徒が思いを共有できるようにしている。				
					【熟議の様子】
	(2) 児童生徒会議 天王中学校区の小学校児童会と中学校生徒会のメンバーが一年に一度集まり、よりよい学校をつくるためにワークショップを行っている。今年度は9月末に開催し、事前に全校生徒を対象として行ったアンケートの結果を基に、「だれもが仲よくなるために、わたしたちにできること～だれにとっても楽しい学校～」をテーマに話し合った。小学生も中学生も「困っている人を助けることや相手の気持ちを考えることが大切だ」という思いは同じであることを確認し、今後、挨拶運動や感謝の気持ちを伝え合う活動など、それぞれの小・中学校で同じ方向性で活動していくこととなった。				
4 これまでの成果と考えられること	・熟議を行ったことで、学校のことを自分事として捉え、集団としての学校や個人としての自分自身を振り返るきっかけとなった。 ・中学生熟議を受け、PTAにおいて保護者と教師も「こんな中学生に育てたい」というテーマで熟議を行い、子育てについて学校や地域が思いを共有することができた。				
5 今後の課題	・今後の活動として「L I V E会議」を予定している。生徒会から提案した共通のテーマを基に、各学級の代表者が全校生徒の前で意見交換を行う活動で、昨年度初めて実施した取組である。熟議で話し合っ考えた「目指す学校像」に向けて定期的に振り返りをして、生徒会執行部でテーマを設定したうえでL I V E会議につなげていくようにしたい。				

学 校 名	由利本荘市立本荘東中学校	生徒数	3 1 5 人	学級数	1 3
1 活動名	「J A S M I 運動」の推進を通して「いじめのない学校づくり」を目指す！				
2 活動の趣旨	生徒会が推進する「J A S M I 運動」を各種委員会活動と関連づけて「いじめのない学校づくり」に取り組む。全校生徒が、冷やかしからかいが「いじめ」につながるという認識をもち、お互いのよさを認め合い、共に高め合うことができるよう学年の垣根を越えた縦割り活動を取り入れて「日本一通いたくなる学校」を目指す。 ※JASMI…J:授業を大切にしよう A:あいさつをきちんとしよう S:清掃をていねいにしよう M:身だしなみを整えよう I:いじめをなくそう				
3 活動の概要	(1) いじめ撲滅運動推進の提案と「J A S M I 運動」推進の確認 ・生徒総会（5月）において、「J A S M I の『I』いじめをなくし、居心地の良い学校を作れる東中生」の確認と活動の目的を生徒会執行部が説明した。 ・「いじめ撲滅宣言」を提案し、全校生徒の承認を得た。 (2) 生活委員会と連携した全校生徒による「いじめ撲滅」標語の作成 ・全校生徒が「いじめ撲滅標語」を作成し、各クラスの代表標語を選定した。 ・「いじめ撲滅集会」を開催し、代表の標語の表彰と紹介を行った。 (3) 「いじめ撲滅宣言」の掲示と「朝の挨拶（JASMI「A」爽やかな挨拶ができる東中生）運動」の継続的な取組 ・生徒会執行部制定の「いじめ撲滅宣言」を各学級に掲示して啓蒙活動を行った。 ・生徒会執行部、各種委員会を皮切りに各学級、部活動（総体前）、文化祭前は各部門等、縦割りを含めて年間を通して挨拶運動（横断幕で地域にアピールしながら）を実施した。 (4) 生活委員会による「いじめ撲滅集会」（7月・11月）の実施 ・いじめ撲滅をテーマに集会を実施…SNS使用要注意 ・いじめがテーマの曲で意識の高揚 ・「いじめ撲滅宣言」に関する意識アンケートの実施、結果分析といじめ撲滅への意識付け (5) 学校行事やボランティア活動での縦割り活動による「いじめ未然防止」に向けた意識の高揚 ・運動会での色別（学年の垣根を越えた「縦の絆」づくり）応援合戦 ・東中生母校（出身小学校）に帰る…総体の代日休業日に小学校へ出向いての挨拶運動 ・LET'S CLEAN OUR ROAD大作戦…夏休みに通学路のクリーンアップ活動を実施				
4 これまでの成果と考えられること	生徒会執行部を中心に行われた活動を通して、いじめ未然防止に向けた意識の高揚が感じられる。学年間の絆が高まり、相手への気遣いができるようになった。「いじめ撲滅宣言」に関する意識アンケートの結果では、「いじめ撲滅宣言を意識して生活しているか」という項目について88%の生徒が意識できていると回答した。また、「いじめ撲滅宣言を意識して行動できているか」という項目では、83%の生徒ができていないと答えた。昨年度からの取組が意識改革につながっていることが伺える。生徒集会では、アンケート結果を踏まえて意見交換を行い、「いじめ撲滅」のために、今後取り組みたいアイディア（ポスター作成・メッセージ看板の作成、毎日の放送活動での呼びかけ等）を出し合うことができた。後期の新しい生徒会役員が、出されたアイディアに工夫を加えて「いじめ未然防止」に向けた取組の強化を図っていききたいと意欲を高めている。				
5 今後の課題	様々な活動を通して、相手を気遣いながら協働する姿が見られるようになってきたが、上記と同じアンケートにおいて、いじめを察知しても「注意できない」と回答している生徒がいることも事実である。 今後は、定期的にいじめに関する集会を開き、ロールプレイングや寸劇なども取り入れながらどう対応することがいいかを考える機会を設けたい。本活動に取り組んで2年目であるが、今後も、この取組による成果を生徒が実感できるような振り返りの場面を設けていく必要がある。				



【生徒総会…いじめ撲滅宣言】

学 校 名	湯沢市立雄勝中学校	児童生徒数	1 1 8 人	学級数	6
-------	-----------	-------	---------	-----	---

1 活動名

雄勝中学校あったかプロジェクト～「雄中あったか集会」によるいじめ未然防止～

2 活動の趣旨

いじめ未然防止のための生徒集会を通して、生徒が自ら自分たちの生活を振り返り、望ましい人間関係について考えることで、「いじめ」に関して真摯に向き合うことができるようにする

3 活動の概要

(1) いじめ未然防止のための取組

① 雄中あったか集会

いじめを未然に防止する目的で、10月に生徒会主催の「雄中あったか集会」を開いた。学校生活アンケートで生徒から寄せられた「苦手な人とどのようにつき合えばよいのか」という悩みと、「一人であることが多い」という悩みについて話し合うことで、望ましい人間関係について考えた。話し合いでは、生徒が問題に真摯に向き合えるように、ペア→4人→8人と異学年が混在するグループで少しずつ話し合いの輪を広げた。さらに、いじめを生みださない集団にするために、問題場面が描かれた図を使い、日常生活の中でどのような行動が問題になりいじめにつながるのかを考えた。仲間を大切にする意識を高めるために、全校生徒が集会を通して学んだことを振り返りカードに書き、廊下に掲示した。

② 道徳の時間の活用

集会後に全校で「卒業文集最後の二行（文部科学省「私たちの道徳」）」を資料として使い道徳の時間にいじめを許さない心情を深めた。

(2) 小学校と連携した異年齢交流の取組

① 小・中学校合同挨拶運動

小・中学校一体型校舎という利点を活かし、生徒会を中心に雄勝小学校児童会と一緒に挨拶運動を行うことで、同じ校舎で学ぶ仲間として互いに声を掛け合うことができた。

② 合唱祭のプレ発表会への小学生の招待

9月に行われた合唱祭のプレ発表会に、雄勝小学校の3年生から6年生までを招待した。同じ地域に育つ先輩として、一生懸命に歌う姿を披露することができた。

4 これまでの成果と考えられること

学校生活アンケートでは、学校生活に不安や悩みを抱えている生徒はほとんどいない。いじめの訴えをする生徒もなく、一人一人の生徒が自己有用感をもち、充実した生活を送ることができていると考えられる。「雄中あったか集会」での意見交換では、一人一人が自分の意見をもち、仲間の悩みを解決しようと真剣に話し合いに参加する様子が見られた。道徳の授業後の振り返りでは「いじめを無くすためにも、相手の気持ちを考えながら正しい行動をする」という記述が多く、集会での話し合いが生徒にとって意義のあるものであったことが伺える。

本校は、小・中学校一体型校舎であるため、登下校や学校行事などで、小学生と共に活動することが多い。様々な場面で小学生の手本となれるように意識していることが、規範意識を高め、温かな人間関係の構築につながっていると思われる。

5 今後の課題

「雄中あったか集会」を継続して行うことで、学校生活で生じる身近な問題を自分たちで解決しようとする意識を高めていきたい。



【「雄中あったか集会」の様子】

学 校 名	東成瀬村立東成瀬中学校	児童生徒数	67人	学級数	3
1 活動名	「東中宣言から自己を見つめる」 ～期待して登校、満足して下校するための取組から～				
2 活動の趣旨	本校生徒は、自然環境に恵まれた高台に建つ校舎で、「未来」につながる「今」を大切にしたい学校生活を送っている。全校生徒のまとまりもよい。 本村教育の軸である「小中連携教育」の理念の下に、共生社会を生き抜く力を、生徒自身が主体となった「話し合い活動」を行い、「合意形成」し実践することで、いじめのない学校づくりを目指している。				
					
	【キバナコスモス植栽活動より】				
3 活動の概要	(1) ミニ討論会による「東中宣言から自己を見つめる」				
	 学校生活を充実したものにするために、昨年度生徒会と中央委員会が主体となって「東中宣言」を作成した。各学級1ヶ月サイクルで学校生活の状況を検証し、次の月の重点目標を決めている。今回は、学級集団だけではなく、自分自身の生活状況や仲間、地域の方との関わり方を見つめ直し「個人目標」を設定した。目標を意識した学校生活を送ることができた。 (8・9月：全校)				
	【ミニ討論会の様子】				
	(2) 生徒会による「学校坂」のテーマ募集と発表 生徒は急勾配の坂を歩き、高台にある学校に登校している。学校生活への期待を胸に登校してほしいという願いの下、二つの坂に「名前」を付けることにした。生徒会長からの趣旨説明と全校生徒への名称募集をした。議論を重ねた結果、小学校側が「希望坂：のぞみざか」国道側が「夢見坂：ゆめみざか」に決定し、学校祭で発表をした。(6月～10月：全校)				
	(3) 全校縦割り活動の充実 体育祭を充実させ、生徒の自己有用感を育むために、体育祭は縦割りで3年生の軍団長を中心に進めている。軍団長は練習内容の作成や下学年との連絡調整等、当日を充実させるための過程を大切にすることで、多くの学びと充実感があつた。全校が一体となった活動ができた。1、2年生には、先輩に対する感謝の気持ちが育ったように思う。				
	(4月～5月：全校)				
4 これまでの成果と考えられること	・生徒主体の活動により、一人一人に自覚と責任感が芽生えてきた。さらに、挨拶が「気持ちのよい」ものになるとともに、下足棚や更衣室等の使用の仕方にも変化が見られ「揃える」「合わせる」を意識した学校生活を心掛ける生徒が増えてきた。 ・「何のために話し合うか」を理解した上で話し合い活動に参加しているので、実践意欲と実践力が高まってきた。 ・坂の名称は、学校生活を送る生徒の意欲を喚起しているように思う。表情にも変容が見られ柔らかい表情で学校生活を送っている。				
5 今後の課題	「仲間を大切にする」「仲間の心を大切にする」集団になろうと4月から全職員が話をしていることで、「いじめに関わる」事案はほとんどない。しかし、保育園から長く続く人間関係からか、仲間のちょっとした態度に敏感な生徒もあり、積極的な行動や切磋琢磨など、生活向上のために主体的に声をかけていく生徒は少ない。 一人一人の心を大切にしながら、「よさ」は伸ばし、「課題」はアドバイスしようとする主体的実践力を養うための生徒同士の「関わり方」をどう意識させていくかが課題である。				

【高等学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。

五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学 校 名	秋田県立ニツ井高等学校	児童生徒数	75人	学級数	5
-------	-------------	-------	-----	-----	---

1 活動名 「いじめをしないために」キャンペーン

2 活動の趣旨

平成26年度に制定した「いじめゼロ宣言五か条」をもとに、生徒が主体となっていじめをしないための意気込みを共有するため、標語やポスターを作成することで、いじめゼロに向けた生徒同士の意識を高め合うことを目的としている。

3 活動の概要

4月27日 生徒総会（全校生徒）

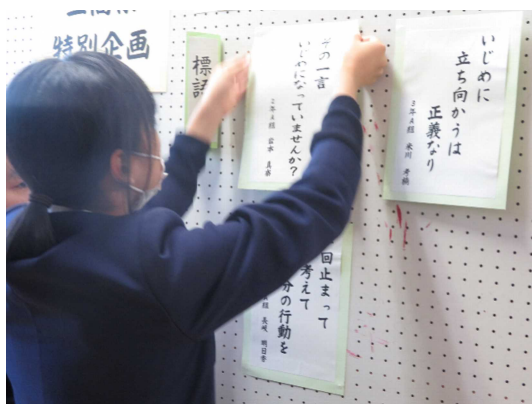
生徒総会において、「いじめゼロ宣言五か条」を全校生徒で読み上げ意識を高める。

10月12日 全校生徒から標語とポスターを募集

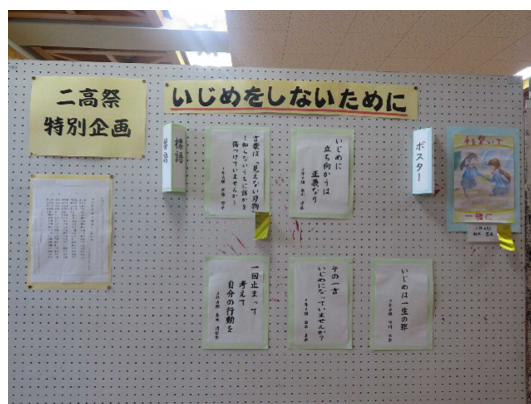
10月28日 二高祭にて標語とポスター掲示

応募された作品の中から、生徒会執行部がよい作品を掲示し、全校生徒や来場者に見てもらい、いじめゼロに向けた意識を高める。

11月 1日 標語、ポスターを校内各所に掲示し、意識付けを図る



【執行部の作業の様子】



【二高祭での掲示】

4 これまでの成果と考えられること

全校を挙げて、いじめ防止に取り組むことができた。「いじめゼロ宣言五か条」を制定した生徒たちは卒業しているが、毎年継続して全校で読み上げ意識の向上に取り組んできた。さらに、今回の活動で生徒会が中心となり、各クラスで生徒一人一人が、いじめに向き合い自分の言葉で標語を考えることで、主体的にいじめゼロに向けた意識を高めることができた。

また、ポスターと一緒に標語を二高祭で掲示することで、他の生徒の考えも共有することができ、来場した地域の方々にも理解してもらうことができた。

5 今後の課題

一時的な取組では心の奥底までへの浸透は難しいと思うので、今後も継続して取り組むとともに学校生活に溶け込んだ取組の工夫をしていきたい。

学 校 名	秋田県立五城目高等学校	児童生徒数	2 6 6 人	学級数	9
1 活動名	五城目高校いじめ未然防止に向けた取組				
2 活動の趣旨	平成26年度に五城目高校いじめ防止基本方針を作成して以来、生徒会を中心に様々な対策を講じてきた。その活動の中で1年生の入学直後と夏休み前後にトラブルが多い傾向にあることに着目した生徒会と校風委員会のアイデアから、平成28年度に1年生の1学期をターゲットにした企画を教職員と連携しながら計画した。				
3 活動の概要	①1年生を対象にしたクラス毎のグループワーク 平成28年度に実施。各クラスの評議委員と校風委員を中心に「安全安心な学校づくり」というテーマを各班で話し合い、発表した後に、テーマに対する「クラスの提言」をまとめた。この企画をベースに生徒会と教職員で更に検討を重ね、専門家を活用する方向性を確認し、次年度の企画を計画していった。 ②仲間づくりのグループワーク 平成29年度から実施。本校スクールカウンセラーの渡部明子先生の協力を得て入学2週目に実施している。「同じクラスや学年の仲間として、互いに関わり合うきっかけをつくる」「互いの違い（個性）や人としての多面性に気付くことで、自分や他者を大切にしようとする心を養う」ことを狙いとして、ペアワークやグループワークを展開した。 ③人権教室 平成29年度から実施。本校学校評議委員会の中に、地域の人権擁護委員の方がいたことをきっかけに計画を進めた。対象は1年生のみであったが、企画段階から五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村の人権擁護委員の方々の協力を得ることができ、かなり内容の濃いものとなった。 「二つの事例（いじめ・SNSトラブル）の問題点を挙げ、予防策や解決策について仲間の意見に耳を傾けながら討議し、自分なりの予防策や解決策を身に付ける」ことを到達目標とし、二つの事例について人権擁護委員の方々も交えてグループワークを実施した。				
	  【仲間づくりのグループワーク】 【人権教室】				
4 これまでの成果と考えられること	生徒会を中心に全校集会の場面を活用した「いじめ防止の呼びかけ」や校風委員会の「昇降口指導」などの地道な活動も、今回紹介したグループワーク等の活動の効果をより高めていると実感している。学校全体に「いじめ防止」と「安全安心な学校づくり」という意識の高まりが感じられるようになってきた。				
5 今後の課題	取組を通して、小・中学校でのいじめ対策の指導の効果を実感している。いじめ対策の指導を具体的に始めた頃に比べると、生徒の反応はかなりよくなっている。しかしながら、スマートフォンを媒介とするトラブルは常にくすぶっているのも現実であり、生徒会と教職員が連携をしながら情性で続ける活動にならないよう常に模索し続ける必要があると思う。				

【特別支援学校】

学 校 名	秋田県立能代支援学校	児童生徒数	84人	学級数	15
1 活動名	小学部・中学部・高等部が連携したいじめ防止のための話し合い活動				
2 活動の趣旨	生徒会執行部員として、いじめ防止のためにできることを下級生に伝えたり、一緒に考えたりする。				
3 活動の概要	高等部学部集会において「いじめのない学校にするには？」というテーマで話し合いを行い、その意見をまとめていじめ防止のポスターを制作した。しかし、小学部、中学部の児童生徒に意識付けをすることが難しいという課題が残った。そこで、高等部学部集会の話し合いをもとに、高等部の生徒会執行部員が小学部、中学部の学部集会で、その内容を伝える活動を行った。 (1) 小学部集会 感謝や挨拶の大切さについての寸劇を行った。また、よいと思う行動を選ぶクイズを出題し、小学部児童に選んでもらう活動を実施した。 (2) 中学部集会 相手の気持ちを考えた行動の大切さについての寸劇を行った。寸劇を見た後、どう行動すればよかったか、高等部生徒会執行部が各グループに加わって話し合いを実施した。  【小学部 学部集会での寸劇】  【中学部 学部集会での話し合い】				
4 これまでの成果と考えられること	・高等部生が小学部、中学部生の模範となろうとすることで、いじめ防止に対する意識が高まった。 ・小学部生が年齢の近い先輩の話に興味をもち、注目して聞くことができた。クイズにも積極的に答え、「仲よくするためにはどうすればよいか」を考えることができた。 ・中学部生が高等部生からのアドバイスを受けながら、話し合い活動を通して、相手の気持ちや具体的にどう行動すればよいのかを考えることができた。憧れの先輩から教わったということもあり、いじめをなくすことの重要性を感じることもできた。 ・高等部の生徒会執行部員が小学部、中学部の児童生徒にいじめ防止のためにできることを伝える活動を行ったことで、お互いに自分たちがどう行動すればよいか考え、意識を高めることができた。				
5 今後の課題	今回いじめをなくすために行った活動は、いじめ防止だけでなく、よりよい学校にするための活動とも言える。現在、本校で行っている挨拶運動や縦割りでの活動、表彰式なども、様々な人とお互いを認め合い、適切に関わるという意味で、いじめ防止につながる大切な活動である。一人ひとりの教師がその意識をもって、児童生徒に伝えていく必要があると考える。				

学 校 名	秋田県立栗田支援学校	児童生徒数	228人	学級数	33
1 活動名	いじめをなくそう 笑顔で過ごせる学校に ～中学部の取り組み～				
2 活動の趣旨	生徒会役員が率先していじめや、相手に不安や不快な思いをもたせる行為について考え、いじめをなくそうとする気持ちを高める。また、挨拶運動や学部集会を通して明るく笑顔で過ごせる学校づくりを目指す。				
3 活動の概要	(1) 挨拶運動～ 生徒会役員が、登下校時に玄関前で、児童生徒や保護者に元気に挨拶を行う。 年間5回、1週間単位で挨拶強化週間として実施している。 (2) 学部集会～ いじめにつながる具体的な行為を生徒会役員で話し合い、寸劇に見せる。その後、中学部全体でいじめについて考える時間を設け、いじめをなくそうとする雰囲気高める。 (3) 委員会～ 「これっていじめ？」と題した内容で、生徒自身が体験したり、見たりした行為で、いじめととるかどうかを話し合う時間を設ける。 その手段として、ロールプレイを実施し、自分たちが感じたことを伝え、どんな言い方や態度であればよいかを話し合う。				
					【学部集会で「これっていじめ？」の寸劇】
4 これまでの成果と考えられること	生徒会役員の話し合いの中で、友達の体験に対して、自分の考えを話すことで、人それぞれで捉え方が違うことを知る機会となった。また、日頃友達に対して発した言動や行為がいじめに該当するものもあったと気付くことができた。 学部集会で寸劇を見せることで、生徒会役員だけでなく、学部全体でいじめをなくそう、いじめについて考えようとする雰囲気が高まってきた。日常生活で生徒の言動や行為について「今の言葉はどうですか」と教師が尋ねると、「少しきつい言い方だった」と反省できるようになってきた。また、生徒同士で注意し合うこともできるようになってきた。				
5 今後の課題	これまで、こんな言動や行為はいじめではないかということを取り上げてきたので、やってはいけないことは分かっている。しかし、その場で相手の気持ちを考えられず、つい言葉や行動に表してしまうことがある。また、教師が見ていないときに、つい言葉や態度が出てしまうこともある。相手の立場や気持ちに寄り添う姿を教師が見本として示し、生徒と一緒に考える場面を設けていくことで、自分自身も楽しく過ごせることを実感できるようにしたい。 また、相手の言動や行為を責めるだけでなく、なぜそのような態度をとったかを考えられるように、教師間で生徒の様子を共有し合い、生徒自身で解決できないことを相談しやすい雰囲気を作っていくことを大切にしていきたい。				



鹿角市立末広小学校



湯沢市立湯沢東小学校



北秋田市立鷹巣小学校



湯沢市立雄勝中学校



能代市立能代南中学校



東成瀬村立東成瀬中学校



五城目町立五城目小学校



県立二ツ井高等学校



由利本荘市立本荘東中学校



県立栗田支援学校